巻頭言

政治における参議院議員の役割について

参議院議員　小西　洋之

千葉県地方自治研究センターの御取組に心より敬意を表させて頂きます。寄稿の機会を頂きまして誠に有り難うございます。この度は、政治における都道府県選出の参議院議員の役割とは何か、について考えるところを記させて頂きます。

第一の役割は、６年という長期・安定の任期を生かして国政の重要課題、中長期課題に取り組むことです。私は、集団的自衛権行使の解釈変更の違憲の証明など信念を持って安倍政権の暴挙を追及して参りました。しかし、その代償としてインターネット上では私に対する誹謗中傷の情報が拡散します。去る４月16日に遭遇した幹部自衛官の「国民の敵」等の暴言事件では、この人はネット情報だけで私の主義主張を判断していたことが明らかになっています。解散総選挙による常在戦場の衆議院議員の立場であれば、一時とは言え、こうした誹謗中傷などのリスクを冒して信念に基づき権力と闘うことが難しい場合も起こり得るものと思います。しかし、参議院議員であれば、改選までの期間を考慮しつつ戦略的に国民のために敢えてリスクを取る闘いが可能となります。

また、私は、2012年の民主党政権時代の社会保障と税の一体改革の中で、医療、介護、障がい福祉などの社会保障サービスやジェネリック医薬品の使用促進などの医療費節減のための都道府県・市町村計画のＰＤＣＡサイクルの法制度を作る仕事を致しました。このサイクルはそれぞれ３～６年計画となっており、参議院議員であれば、自らが制度設計した政策の実効性を任期の間に検証し、それを踏まえた新しい政策を立案することができます。現に2012年に策定した医療計画を（二期目の再選後でしたが）2017年に自らの手で再度大改革を行いました。ちなみに、野党議員であっても「制度の生みの親」の国会議員の指導を厚労省は敬意を持って実行してくれました。

第二の役割は、政策立案や組織運営で所属政党や政権を支えることです。衆議院は国会論戦の花形でありますが、やはり常在戦場の衆議院議員は永田町で腰を据えて政策・組織業務に専念することが困難な場合が生じます。その際に、いわば縁の下の力持ちとして参議院議員が地道な政策業務や政権・政党の組織運営を支える役割分担が必要となります。この度、私は、無所属議員となる決断をさせて頂きましたが、これも自らは四年後の改選である立場を踏まえ、千葉で野田前総理を代表とする国民民主・無所属・立憲民主の各級議員からなる政治団体を立ち上げ、その幹事長に就任し来年の統一地方選､参院選の選挙調整等を担い、将来の元民進勢力の結集の土台を築くという役割を自らの使命と念じての決断でございました。

最後に、全県を選挙区とする議員として、東日本大震災の原発事故の風評被害の賠償協議会を設置する取組など全県単位の課題を解決する仕事や、あるいは、甚だ恐縮に存じますが、連合千葉の活動に少しでも貢献させて頂くことなどでございます。メーデーなどに際しましては、総支部長がいない地域では参議院議員が政党代表として伺えるように長浜博行議員と共に微力の限りではございますが努めさせて頂いて参りました。今後とも、参議院議員の役割とは何かについて、常に自ら振り返りながら全力で務めて参る決意です。何卒、御指導を賜りますよう御願い申し上げます。